

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300376		
法人名	特定非営利活動法人 快		
事業所名	グループホーム 快 栗駒		
所在地	宮城県栗原市栗駒稲屋敷後原前13番地		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 30 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 2 月 13 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家を改修した一軒家で地域に溶け込んでいる。小規模ではあるがその分家庭らしさを大切に、ご自宅での生活を延長のような生活を過ごして頂いている。地元の職員による方言を交えた会話などで親しみを持っていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、若柳・金成インターから車で15分ぐらいの住宅街の一角にある。栗駒山麓の風光明媚な田園地帯である。職員が子供を連れて来るときがあり入居者は、孫と思い喜んでいる家族的なホームである。入居者の方がこへ来てよかったと思われる支援を目指している。目標達成計画の災害対策訓練記録の不備については、車椅子に乗っての避難や実際に消火器使用を使用して訓練を行った記録を作成している。運営推進会議の開催は5回行われ、記録を整備しメンバーに渡している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3ぐらいの 3. 利用者の1/3ぐらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム 快栗駒)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会を行い、創業者から『快』という字に込められた意味合いを学んだ。	法人理念を玄関や台所に掲示している。心を大事にすることや、心がある人間として一人ひとりを大事にするケアを「快」の意味することとし、それを目指して支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、日々の挨拶などを通して顔見知りになるなど日常的に交流している。	集会所のごみ拾いや自治会館の清掃は、職員が時間をずらして参加している。入居者は散歩のときに近所の方に声掛けしたり立ち話をする。認知症の勉強会にケアマネジャーが自治会館に講師として呼ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の職場体験。ホームだよりを通して地域へ情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策として紙面での開催となっている。返信封筒を同封し、ご意見など賜われるようお願いしている。	年5回開催し、会議資料を配った。自治会長よりコロナ感染状況や他施設の面会状況を教えてもらった。地域包括職員より空き状況を聞かれ、入居者を紹介してもらった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者、包括支援センターの職員と日頃から協力体制を築けるように取り組んでいる。	介護保険の更新や手続きの相談、事故報告をしている。入居している生活保護受給者について連絡を取り合っている。ケアマネジャー連絡会の出席や支援困難事例のケアのあり方の勉強会に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の情報共有、業務内容の申送り、職員間での声かけで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。感染対策時にはどこまで制限するかなど話し合った。	身体拘束適正化委員会は4回行われている。服薬についてや高齢者虐待マニュアルについて勉強会を行っている。日常のケアの振り返りを行い、検討している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアや虐待に繋がりそうな事案を認知した場合、その都度の声かけや面談を行っている。	市より不適切ケアを理解しやすい漫画を資料として貰い、日常に職員が目にし勉強している。いろんなことを正直に話したくなる雰囲気を作り、ストレスがたまらない環境を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで学ぶ機会を設け、制度を利用している方の担当者との情報共有するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居の際には、本人や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得られるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や、電話、メールなどを通して、ご意見や要望を伺い、運営に反映できるよう努めている。	毎月の写真の送付で「整理が追いつかないので減らしてください」の要望に厳選して送付した。「こうゆう表情もするんだね」と喜ばれた。煙草を減らすように医師に言われ、家族の協力を得て1日3本まで減らした。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談を通して、職員の意見や提案を聞き、運営に反映している。社内SNSの活用など意見を表示しやすくしている。	車椅子の高さが合わないと感じ職員が気づき変更した。職員休憩室にエアコン設置の要望があり取り付けた。ご飯の量を多く食べる入居者の食事について提案があり、食器の材質と色を変え対応した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談や話し合いにより各自向上心を持って働くことができるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量に合わせて外部研修の受講や内部研修を行い、スキルアップを目指している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などを通して同業者との交流の機会を作りネットワーク作りやサービスの向上を目指している。	理美容院から3か月に1回来て貰っている。粉薬が飲みにくいのを見て薬剤師に相談をし、医師に錠剤に変えてもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安や要望に耳を傾け、安心して生活ができるように信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安や要望に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が抱えているニーズや気持ちに寄り添い、最適なサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能や生活歴をいかして、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係性を大切にし、写真を添えて書面で生活状況をお知らせし情報共有に努め、協力体制を取れるようにしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方や地域の方との関係性を大切にしている。	地元の敬老会に職員と出かけ、知り合いと交流した。お盆や命日に家族と墓参りをしている。広報紙を見て昔を懐かしむ方もいる。入居後に馴染みになりお互いに部屋を行ったり来たりして仲良くなった方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が関わり合い、支え合えるように間に入ったり仲を取り持ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もこれまでの関係性を大切に、経過のフォロー、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の難しい場合はご家族様から頂いた情報や表情をもとに本人本位で検討している。	「何がしたい」や「どれがいい」か聞いている。表情や動作から相手の立場になって希望を汲み取っている。希望の部屋が空いたので移ってもらった。思いや意向は、介護記録に記入して共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネジャーなどの関係者から、趣味嗜好・生活歴、経過などの情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の過ごし方、心身状態、できることできないことなどの現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で得られた情報や診療レポートをもとに、担当者会議を行い現状に即した介護計画を作成している。	担当職員が入居者の状態を報告をして医師の意見などを取り入れ、ケアマネジャーが作成をしている。「散歩がしたい」「楽しく過ごしたい」の要望を介護計画に取り入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に記載し、職員間で情報共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のニーズに対して柔軟な対応ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源の把握に努め、安全で豊かな生活を営むことができるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を確認の上、在宅診療所の訪問診療を受けられている。	月に1回訪問診療を受けている。点滴が必要な時には、訪問看護師が対応している。歯医者には、家族が連れて行きホームと情報共有をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所、訪問看護ステーションの看護師と密に連絡を取り合い、症状の変化などの相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院や治療を受けられ、早期退院ができるよう、関係者との情報共有や関係づくりを努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期について意向調査を行い、訪問看護ステーションなどと協力しながら支援に取り組んでいる。	入居時に「看取り介護についての同意書」を説明し、同意を得ている。医師の指示に基づき訪問看護師による処置や職員が情報を共有して、入居者の支援を行っている。2月に1名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備えて応急処置や初期対応について勉強会や訓練を定期的に行っている。とっさのときにわかるよう必要事項を電話の近くに張り出している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水消火器を用いての消火訓練を行った。また日々の外出を通して車いすの方の悪路の移動方法や避難路など確認している。	令和4年5月に夜間の避難訓練を行った。通報訓練の質問にスムーズに答えられない反省があった。職員は目前で火事が起きていると想像して訓練をする必要があると知った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前と苗字、どちらで呼びするかはご本人に確認している。その人となりを大切にし、その方に合わせた対応している。	〇〇さんと呼んでいる。愛称を希望する入居者もいる。居室に入るときは、ノックをして声掛けをしている。排泄対応時は、羞恥心に配慮している。一人ひとりのプライドや特徴を把握して共有して支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で思いや希望を表せるよう働きかけている。自己決定が難しい方には選択肢を提示したり表情をよんだりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日その日をどのように過ごしたいか希望を聞きながら支援している。ホームや職員側の決まりなどを優先させてしまうときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪型、髭剃りなどその人らしい身だしなみやお洒落ができるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむことができるよう季節性や地域性を取り入れながら、一緒に準備や片付けをしている。	献立は職員が作成をしている。行事食としてちらし寿司や刺身、ラーメン、スパゲッティが好まれる。たこ焼きやかき氷を作るときは、職員と一緒に作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量やバランスを一日を通して確保できるよう、ミキサー食、きざみ食、食器の工夫など個々にに対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやスポンジ、洗口液の使用など一人ひとりの状況に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣を生かして支援するようにしている。一度おむつになった方にもトイレでの排泄に向けて介助の工夫に努めている。	排泄パターンにより、食事前や食事後などに声掛けをして誘っている。夜間は、声掛けやパッドの大きさなど個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らずに排便できるよう、飲食物の工夫や排便周期に合わせての排泄介助など、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週に2回の入浴を希望やタイミングを見ながら、個々に応じた入浴支援を行っている。	風呂が苦手の入居者には、朝から声掛けをして昼頃風呂に入っている。入浴剤を使用しているが、肌が弱い方には使用を避けている。仲の良い入居者は、一緒に風呂に入る。風呂を上がるときは、タオルを掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や温度布団の状態など、一人ひとりの習慣やその時々状況に応じて安心してお休みできるよう支援して言う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の作用、副作用の理解に努め、症状の変化に気をつけながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできることや趣味嗜好・生活歴を活かして役割を持っていただきやりがいを感じていただけるよう支援に努めている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなどその時の希望にそって戸外へ出かけられるよう支援している。系列施設と合同で温泉旅行などを執り行っている。	暖かい日は、ホームの周辺を散歩している。感染予防対策をして、栗駒山車祭りや栗駒堤防公園、一迫山王史跡公園などに毎週ドライブに出かけて楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームでお預かりし管理させて頂いている。一部の方はご自身で所持管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や親戚との電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて模様替えなど行い、暑さ寒さ対策をしている。捕まり歩きする方に合わせて柵の配置など工夫している。	リビングに、写真や入居者が作成したひな祭りの折り紙などを飾り季節感を出している。食事の前後は窓を開けて換気をしている。適温、適湿に管理し、時間を決めて消毒をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の相性や他者との距離感の捉え方の違いなどを考慮し、一人ひとりが思い思いに過ごしていただけるよう居場所の工夫をしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みのものを持ってきていただき、温度や照明など居心地よく感じてもらえるように努めている。	使い慣れた衣類や布団、テレビ、本などを持ち込んでいる。孫や思い出の写真や位牌を置いている。掃除を職員と一緒にする入居者もいる。携帯電話で家族と話している入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの『できること』『わかること』をいかして、安全かつできるだけ自立した生活ができるような環境づくりに努めている。		